

2020年度 第2回自治体学会評議員会 議事録

- 1 日時 2021年3月21日(日) 14時～16時30分
- 2 場所 ZOOM会議
- 3 出席者 評議員31名 ※委任状13名

4 議事内容

冒頭、事務局から現時点での出席者25名、委任状提出者13名を含め、38名となり、評議員49名の過半数を超えており評議員会は成立の旨発言あり。他に、傍聴者1名の報告あり。

会議に先立ち、出席者の確認を行った。(評議員の最終出席者31名)

○理事長 COVID-19の影響で、学会運営にも変容が求められてきた。この間、ZOOMを使った運営が多くなっているが、対面で行う意義は重要であり、安易にZOOMを使うのはどうかという課題もあるだろう。自治体学会は、職員が多いので、業務でコロナ対策を市民に求める立場の職員が、感染してはいけないという観点から、防衛的に、オンラインが多いこともあるかもしれない。本日も、ZOOMでの会議を進めていく。

【審議事項】

- (1) 第1号議案 2020年度 事業報告(案)
- (2) 第2号議案 2020年度 決算報告(案) 予算執行状況

一括議題として、事務局から説明

第1号議案は、2020年10月10日開催の第34回自治体学会 on the WEBおよび総会、評議員会、理事会、部会等の開催と主な審議内容、実施事業について、第2号議案は2020年度歳入歳出収支状況について、事務局から説明。

質疑はなく、両議案とも原案通り異議なく承認。

- (3) 第3号議案 中期事業計画(案)について

総務部会長から、2018年度決算に対する監査意見を踏まえ、2020年度総会において「中期事業計画(案)」として説明したものに、2020年度決算状況を考慮し策定、現状認識、基本方針、年度別取組、具体策を説明。

質疑：

- A評議員 2025年度予算推計にある交通費の削減について、現状からどれほど削減されるのか。
- 総務部会長 各部会一律削減ではなく、状況に応じて回数削減を想定しているもの。
- A評議員 具体的な年次計画予算は作成するのか。

- 総務部会長 今回の中期事業計画に基づく取組を進め、毎年度の収支予算計上時に確認をしていく。
- B評議員 会員数の減少は見込まれるのかもしれないが、会員数の増加に向けた具体的な取組はいかがか。これまでも収入増につながる検討や取組もなされているがどのように考えているか、大胆な発想も必要ではないか。
- 総務部会長 中期事業計画は、会員間での危機感の共有を図るものとする。具体的な取組や年度別の取組課題も示し、会員拡大策も検討していく。理事会において検討プロジェクトチームを編成し協議を進める。
- C評議員 会員は、年会費を負担しており、大会参加費を別に支払うというのはいかがか。大会経費の削減等により、参加費の無料化、資料代程度の負担などは検討されないのか。
- 総務部会長 この中期事業計画（案）では大会参加費の無料化等は想定していない。今後の検討の中で可能性について考えたい。
- 理事長 年会費や参加費などのあり方はセットで考える必要はあろうかと思うが、参加費の無料化は、歳入減につながることから、ますますの歳出削減に努める必要が生じる。
- B評議員 会員数の減少等による事業費の減少ではなく、「攻め」の姿勢を持って取組を進めてほしい。

- 理事長 第3号議案については、そもそもこれを議決すべき議案とするのかも議論した。規約によれば毎年度の事業計画や予算は、総会議決事項であり、細則で評議員会議決事項となっており、同様の扱いとして総会議決事項とし、その前に評議員会の議案として挙げているので、その点についてもご了解いただけるか伺いたい。

（評議員の意見無し）

審議の結果、原案通り承認。

（4）第4号議案 2021年度 事業計画（案）

（5）第5号議案 2021年度 収支予算（案）

一括議題として、事務局から説明

第4号議案は、2021年8月20、21日に第35回自治体学会を神奈川県川崎市で開催予定であること、不測の事態に備え、オンライン活用等の方策を検討するとの説明。また、総会、評議員会、理事会、部会等の開催、実施事業、運営（案）について説明。2021年4月3日からメーリングリストのサービス提供会社を変更する旨説明。

第5号議案は2021年度収支予算（案）について、事務局から説明。

質疑：

○B評議員 大会に関する事で、例年のような情報交換会は行わないのか。参加者

同士の交流は、大会の魅力であり楽しみでもある。

○事務局長 コロナ禍での食事等の提供はリスクがある。大会については、感染症対策を十分行ったうえで開催する。現在、企画部会にて名刺交換会等を検討しているところ。また、学会賞表彰式を同時に行う予定。

○D評議員 会員拡大策として、企業や民間団体の加入は何か問題があるか。

○理事長 民間事業者への働きかけは現状議論していないが、今後検討する。民間事業者の方であっても、個人ベースで加入していただくという考えもあろう。

○事務局長 2020年度にNTTドコモの支店が団体会員として加入した実績あり。

○D評議員 意見として、学会の目的に賛同する方や団体等からの寄附等も視野に入れたらどうかと考える。

○事務局長 新たな財源検討の余地はあると考える。

○E評議員 2020年度の決算をふまえ、コロナ禍後の活動を見据え、別勘定の基金積立を検討するとあるがどのような考えか。

○事務局長 コロナの影響により、学会の活動もデジタル化対応など、新たな取組が必要となる。そのため、特別財産基金とは別に管理し、その取組財源としたいと考える。次の総会時に会員協議をし、了承されれば新たな基金として活用する。

○F評議員 オンラインの活用を図るとあるが、予算・決算はどのようなか。学会の契約するオンラインは地域活動でも利用は可能か。

○事務局長 2020年度は、月2,200円でZOOMの契約をし、事務局や部会等の会議で活用した。年間では20,000円程度で契約できる。WEB大会は、ZOOMウェビナー2ヶ月契約、月22,880円で45,760円執行した。

2020年度北海道自治体学会は、地域活動支援費10万円の中で、WEB契約を含め申請。2021年度の地域活動での利用については、別途検討させていただきたい。

○F評議員 コロナ禍後の学会活動の検討に、学会運営及び大会のあり方等を検討するとあるが、どのような内容か。

○事務局長 理事会にて決定した検討会であり、基本ZOOM会議を想定しているため、予算としては計上なし。ただし、検討会における内容により、2022年度以降の予算化はありうる。

両議案とも原案通り異議なく承認。

【報告事項】

(1) 各部会からの報告

①企画部会

川崎大会 10分科会予定。

感染症対策をしっかりと実施する。

新たな取組として、事前勉強会をオンライン形式で実施する予定。

②編集部会

学会誌34-2号 4月上旬に発送予定。

学会誌の投稿論文が増加しており、魅力の向上等、会員拡大にも役割は大きいと認識している。

③地域支援部会

自治立志塾、田村明賞受賞地域を訪問する事業について、コロナ禍の状況を見ながら検討。

オンライン活用支援策を検討中。

④研究支援部会

学会誌掲載論文について、約1年後にJ-STAGEへの登録を進めている。

⑤総務部会

4月3日から新メーリングリストへ移行。

⑥事務局報告

2020年度入会者 27人、退会者 57人（2021年2月時点）。

3年間会費未納者には、会費請求し、納入がなければ退会扱いとするが、慎重に対応する。

学会賞2021年度募集について、34-2号に要項を掲載、今回から研究論文賞について他学会へ推薦している場合は申告していただくこととする。

【その他】

○G評議員 会員獲得策として、新規会員1人につき紹介会員の次年度の年会費をたとえば3分の1ずつ免除するなどの「ねずみ講」的仕組みを検討してはどうか。

○F評議員 新メーリングリストについて、先にメールでの案内があったが詳細はどのようなか。

○総務部会長 4月3日に新メーリングリストにて移行のお知らせメールを送信する。その時に自身宛に正しくメールが届けばよい。届かなければ事務局あてに不着の連絡をお願いする。

○B評議員 会員獲得策について、会員からいろいろなアイデア、意見を聞く機会を設けてはどうか。

○B評議員 メーリングリストの取扱いについて、個別の回答や返信は事務局宛にするよう注意喚起をお願いしたい。そのまま返信するとメーリングリスト登録者全員への配信となってしまっている例が散見されるため。

○副理事長 中期事業計画の会員拡大策は、プロジェクトチームを立ち上げることであり、本日出された意見も参考に、取り組むべきことをいろいろと考えてい

きたい。

○G評議員 川崎大会での名刺交換会について、飲食を伴わない形での交流は難しいので、「わらしべ長者」のように各地の特産品を持ち寄って交換しながら次々に自己紹介できるような、楽しく自然に交流できる仕掛けの検討をお願いしたい。

○H評議員 学術問題検討委員会について、既に2回開催され、3月28日に3回目が予定されているが、現在の検討状況と今後の見通しはどのようなか。

声明文を出すのかどうかも含め検討するとの認識を持っているが、着地をどうするのか。

○総務部会長 まずは、この問題について、多くの会員で意見交換を進めたいと考え、円卓会議を実施しているところ。当面は、川崎大会で会員間での意見の共有化をめざしている。

○理事長 川崎大会が一つの着地点であると考えている。

以 上